

令和6年度 学校関係者評価・第三者評価 報告書

奈良学園登美ヶ丘中学校・高等学校

本年度の学校関係者評価・第三者評価の機会を次のように複数回設ける。

I 学校関係者評価・第三者評価 委員会（幼小中高合同）

①令和6年 11月29日（金） 10:00～12:00

②令和7年 3月 6日（木） 10:00～12:00

II PTA 関係者による学校関係者評価委員会

①令和6年 6月13日（木） 10:00～11:30（幼小中高合同）

②令和6年 11月19日（火） 10:50～12:30（中高）

それぞれにいただいた評価を次にまとめ、報告する。

I 学校関係者評価・第三者評価委員会

I-①

1. 日 時 令和6年11月29日（金） 10:00～12:10

※はじめに、本日の予定を確認後、M4（中学2年）の英語、PP（幼稚園）の交通安全教室、PI（小学1年）の英語の授業見学していただき、その後ご指導いただいた。

2. 評価者：前田 康二（奈良教育大学 教職大学院 教授）

3. 出席者：安井教育総括監、兼中学校・高等学校長、高塚小学校長、榎幼稚園園長

立花中学校教頭、日比小学校教頭、吉岡事務長

三笠高等学校教頭（司会）、岡井小学校教頭（記録）

4. 評価結果

①各校種（幼稚園、小学校、中学校・高等学校）からの報告

全校種の定める中期計画をもとに重点取り組みを報告する。

幼稚園：○保育の質的向上の取り組みとして、幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿を全教員で共有し合いながら日々の保育を進めている。インクルーシブ保育の視点を持った保育や体力づくりの向上に向けて小学校の臨床心理士や特別支援教育アドバイザーや小学校教員と連携をしながら滑らかな接続も含めて取り組んでいる。

○自然と親しむきっかけや環境作りとして、奈良学園大学と中高の自然再生研究会との共同研究事業の水中の生き物観察や外部講師による園庭の身近な生き物観察会を行った。今後探究活

動につなげたい。

○園行事の見直しを行い、2学期に行っていたマーチングフェスティバルをやめたり、7月に実施していたお泊り保育を2学期に移したりし、園児がじっくり豊かな遊びや学びに取り組めるようにした。

○今年度より午前中全て参観してもらえる自由参観日を設定し、登園から降園までの普段の園児の様子を見てもらえるようにした。

○昨年度から行っている奈良学園幼稚園日記に加え、2学期から各担任からも学級通信（月一回程度）を作成するようになった。また、毎学期個人懇談を行い、保護者に園児の様子を伝える機会も設けている。

○園児募集の取り組みとして、来年度はいちご組（2歳児保育）を週1日から週5日に変更や、満三歳児入園などを行うこととしている。

小 学 校：○重点項目の志願者増に向けた戦略的広報の実施については、内部進学志望者は昨年度に比べ微増したが、一般志願者については減員となっている。志願者増に向けての取り組みとして、在籍児童の兄弟姉妹の割合が高いことから在校生の弟妹にも志望してもらえるように教育の充実を図ったり、幼稚園や幼児教室で年中の出前授業を行ったりして本校の魅力をアピールしている。

○今年度ユネスコスクールのキャンディデート校として活動し、現在本加盟の手続きを進めている状況である。各学年で行う宿泊学習を今年度見直し、事前学習、体験、事後学習の流れを整理し、ユネスコスクール加盟申請へつなげる準備を行っている。

○様々な企業や団体（関西電力・天川村のフグ養殖・糞虫館など）と連携した授業やパラアスリートとボッチャ体験など、様々な体験を通してキャリア形成能力の育成を行っている。

○あるテーマに基づいた内容の本を紹介するブックトークを全学年で取り組み、グループごとにつながりを考えながら一人一人が本を選んだり、原稿を書いたりしながらグループ発表を行う協同学習を行っている。

○個別最適化した場の構築として、AIドリルや英語ではATR（英語絵ラーニングシステム）を活用している。

中 高：○web ベース広告・web コンテンツを活用した広報活動の推進（ターゲティング広告、Zoom ウェビナー、LINE アカウント、YouTube 動画配信、個別見学会のオンライン申請、サイネージ広告など）や塾単位・県中南部での説明会の開催も行っている効果もあり、志願者数が699人（昨年度より126人増）、受験者数が565人（昨年度より102人増）となった。

○教員の質的向上と教員指導力の強化として、1学期には授業交流週間、2学期には公開研究授業を実施した。授業の質的向上のために生徒アンケートや保護者アンケートの結果もフィードバックしている。人権・道徳教育の充実として北部Aブロック公開HRを11月22日に実施し、高1、高2学年で異文化理解・多文化共生理解というテーマで公開授業を行った。

○小中授業参観・授業交流等を行うなどして幼小中高一貫教育の推進を進めている。

○学力保障の一つとして放課後学習支援システム「尚志館」と連携して質問対応付き自習室の充実を図っている。卒業生チューター（チューターの約1/3）が採用され、後輩の指導を行っている。

○学習到達目標 (GTZ) を各学年、類ごとに設定し、職員会議で各学年の進路担当から報告される模試の結果分析を共有し、その報告内容から課題や取り組み内容を確認している。

○大学探訪 (大阪大学・京都大学・奈良県立医科大学・奈良学園大学 (保健医療学科)) や卒業生によるキャリアトーク・合格体験発表会・大学模擬授業などを通して進学意欲の向上を図っている。

○AUS 研修 (高 2) に加えて、今年度より中 3・高 1 対象にシンガポールグローバルリーダー育成研修 (シンガポール国立大学生をメンターとする課題解決型のプログラム) を新規事業として実施 (28名の生徒が参加) する。高 1 の 3 学期に実施するターム留学には今年度 14 名が参加する。

○各学年の探究学習カリキュラムの充実を図るとともに、学びみらい PASS、みらい PASS ジュニアを活用してパフォーマンス評価を実施している。

②参観授業の感想

M4 (中学 2 年) 英語: 担当教員が ICT 活用に非常に長けていて、様々なアプリを使いこなされていることに驚いた。Kahoot! 等を授業で使われている教員も多いが使いこなすところまでいかずに操作に時間がかかったり、ゲームをしているだけになったりしている場合があるが、今日参観した授業では、それぞれのアプリやツールで何を学ばせるかをしっかり研究されて使われていたので、非常に良かった。また、家庭学習と授業の中での個別学習のバランスも考えられていることも感じられた。英語の基礎的な力 (語彙・文法・発音) をそれぞれ違うツールを使って基礎力をつけられているところがよかった。今回のような基礎的な力がコミュニケーションの場でどのように生かされるか見てみたくなった。

PP (幼稚園) 交通安全教室: 警察の方から安全確認の仕方を教えてもらいながら体験する年長の様子を年中年少が見ることでロールモデルを園児も持てる環境は、奈良学園登美ヶ丘で目指されている異学年交流や校種間のつながりになっているように思った。幼稚園の園庭の紅葉がきれいだったのが印象的で、季節感がある落ち着いた雰囲気の中で学べることをもっと発信されたらと思った。

PI (小学 1 年) 英語: ALT が非常に教える技能が高くて児童との人間関係も良さそうで安心して学べているところが印象的だった。ALT が英語で話していることが分からない児童もいると思うが、担任がうまくフォローしているところも良かった。

月・曜日・天候・気分についての英語で言えることに本当に一年生なのかと驚かされた。発音も普段からきちんと指導されていることがよく分かった。

③各校種の取り組みについて

各校種からの活動報告についても幼小中高のつながりを大切にしていることがよく分かり、学園の取り組みの強さを感じた。他の幼小中高一貫の学校はあるが、奈良学園登美ヶ丘のように校舎がつながっているような学校は少なく、どの学校も校地が少し離れていることで奈良学園登美ヶ丘ほどの一貫性は出なくなるので、幼小中高のつながりを大切にされていることは強みになると感じた。子どもたちが日常的に顔を合わせ、一緒に行事をしたり、

コラボ授業を行ったりすることが一番大きな売りであると感じた。

広報については奈良教育大学でも苦勞しているところなので、どの学校も悩ましい課題であると改めて感じている。

海外研修もたくさん取り組み国際交流の場を作られていることもよいと思う。奈良教育大学でも海外に行かない生徒もいるので留学生の受け入れの促進をし、キャンパス内に国際交流ができる環境を作っていこうと考えている。今後、奈良教育大学の留学生（教員研修留学生など）もたくさん増やしていこうと思っているので、奈良学園登美ヶ丘の生徒との交流する機会も考えてもらえたら協力もさせてもらいたい。

④その他

今回は令和7年3月6日（木）に1年間の教育活動について意見をいただくことで調整した。

I-②

1. 日 時 令和7年3月6日（木） 10:00～12:00

※はじめに、本日の予定を確認後、MI（小学5年）と、PPI（年少）の英語の授業見学していただき、その後ご指導いただいた。

2. 評価者：前田 康二（奈良教育大学 教職大学院 教授）

3. 出席者：安井教育総括監、兼中学校・高等学校長、高塚小学校長、榎幼稚園園長
立花中学校教頭、吉岡事務長
三笠高等学校教頭（司会）、岡井小学校教頭（記録）

4. 評価結果

①各校種（幼稚園、小学校、中学校・高等学校）からの報告

全校種の年度末分掌・委員会総括表をもとに今年度の取り組みや次年度に向けての課題を報告する。

幼 稚 園

【教務部】・遊びを楽しむ中で園児に力をつけていくことを本園の一番大切にして進めてきた。さらにその軸がぶれることなく進めていけるように、次年度は教員研修を深めていくことが求められる。日々の保育や園行事の指導について若手教員が単にベテラン教員の模倣にとどまるのではなく、園内体制を整え、園外研修への積極的な参加を推奨していく。

・人権教育として、奈良学園大学との共同研究事業を通しての花苗植え、外部講師を招いての自然観察体験、中高の自然再生研究会による生き物観察会などを通じて園児が自然との関わりを深める体験を行うことができた。次年度も継続して実施する。

・幼小交流については、次年度も小学校と協力をして進めていく。約半数の19名の園児が内部進学する。早い時期からの幼小交流や小学校の先生による年中児を対象にした体験授業を継続するなど広報面も含めて大切にしていきたい。

【総務部】・図書室活動として、家庭でも絵本を見る機会を増やしてもらうために、年長のみとしていた絵本貸

し出しを2学期から全園児対象とし取り組みを広げることができた。今後も家庭との協力を得ながら広げていきたい。

【保健部】・コロナ収束後、さまざまな病気にかかる園児がでたが、うがいや手洗いの励行などを行って学級閉鎖がほぼなく過ごすことができた。

【給食委員会】・来年度から週2日の2歳児保育を毎日行うことに変更するにあたって、新たに2歳児の給食提供を行う。アレルギー対応など十分に気をつけて提供できるようにしていく。

【広報部】・今年度も説明会や体験保育の内容を工夫して行ってきたが、思うような集客につながらなかった。ただ個別見学に来ていただいた方のほとんどは、受験にまでつながったことを考えると地道なことかもしれないが、園の良さをアピールしていかないとはいえない。

・保護者アンケートでは良い評価をもらっているが、内部の口コミも含めて園での様子が外に向けて伝わるようにしなければならない。そのために来年度も限られた予算の中ではあるが、インスタ広告などさまざまなことで幼稚園の情報を広げていければと思う。

小 学 校

【教務部】・本校はまとめテスト・定期考査・内部進学など他の学校にない業務があるが、担当学年の教員だけでなく、全教員が対応できる体制を作っていくことが必要である。

【生徒指導部】・児童の登下校方面ごとにグループを作り、各学期に登下校班会を行って交通ルールやマナーについて共通理解を行っている。今年度は登下校班のリーダーに班の状況を担当教員に伝えさせる取り組みにより児童の登下校の様子をより把握できるようになった。

・今年度、保護者対象の防犯講演会を土曜日に開催したことで昨年度よりも参加者が増えた。

・スクールバスや電車で教員が同乗して指導する場合は静かであるが、教員の目がないと登下校時のルールやマナーを守れていないことがある。今後も指導を徹底していく。

【総務部】・コロナ禍により実施形態を変更していた小学校卒業式に見直しをかけ、保護者や教員の思いを反映した形態に変更して実施に向け準備を進めている。

【研究研修部】・年間3回、研究テーマに沿った交流授業、西私小連の半日研修会で本校を会場として算数の研修会、夏季休業中に2日間の教員研修会を実施した。

・西私小連の半日研修会では、公開授業だけでなく奈良教育大学の近藤先生による指導助言や講演など、200名近い私立小学校の教員が本校に集まり、大変良い研修となった。

・研究研修部が今年度の研修記録をまとめ、全教員で件数内容を共有した。

【広報部】・学校説明会や体験授業、YouTube動画広告やインスタなどな方法で広報活動を行ったが、来年度入学の一般志願者増には至らなかった。来年度も志願者増となるように取り組んでいきたい。

・来年度は学校パンフレットを一新して本校の魅力を伝え志願者増につなげるようにしたい。

【One to One】

・夏の教員研修において教員全員でプログラミングや生成 AI についての研修を行った。今後は、普段の業務や授業等での生成 AI の活用について研修を深めていきたい。

【総合(ユネスコ)】

・現在、ユネスコスクールのキャンディデート校から本加盟に向けて申請を行っている。

- ・各学年の宿泊学習のストーリーマップを事前学習から事後学習までの一連の流れを重視した見直しを行った。来年度は、今回見直したストーリーマップとシラバスの関係をより明確にして本校の目指す子ども像に近づくように進めていく。

【総合(キャリア)】

- ・今年度も対面式、七夕集会、縦割り遊びなど、縦割り活動を行ってきた。来年度も児童にとってよりよい縦割り活動となるよう実施していく。
- ・現在、ユネスコスクールのキャンディデート校から本加盟に向けて申請を行っている。
- ・各学年の宿泊学習のストーリーマップを事前学習から事後学習までの一連の流れを重視した見直しを行った。来年度は、今回見直したストーリーマップとシラバスの関係をより明確にして本校の目指す子ども像に近づくように進めていく。

中学校・高等学校

【教務部】・今年度の高校3年生より新課程入試となった。今回の入試状況を受けて来年度は新カリキュラムの見直しを進めていきたい。

- ・5年前より始めた尚志館(放課後学習支援システム)であるが、本校の卒業生も7,8人チューターとして後輩の指導に関わってくれたり、登録者数が100名を超えたりなど教員にもさらに認知され、信頼度も増してきた。学期末に成績不審者の講習では、教員が作成した教材を使用するなど尚志館のチューターと連携して指導を行えている。

【進路指導部】・各模擬試験の分析会を行い、模試や入試の動向を確認している。その内容を生徒や保護者にも情報提供している。今までは2学年で実施していた進路講演会を学年毎にさらに生徒向け及び保護者向けに行った。さらに講師を外部に依頼するのではなく、進路指導部長が講演を行っている。

- ・国公立大学の推薦入試を充実した取り組みを進めている。
- ・大学探訪においては、従来の京都大学、大阪大学、医学部探訪に加えて奈良学園大学の看護学科とリハビリテーション学科の先生に協力してもらい、施設見学や説明を聞く機会を設けた。

【生徒指導部】・生徒会とも協力して挨拶運動を行っている。挨拶する生徒が増えてきている。

- ・特別指導の件数はかなり減ってきており、生徒は落ち着いて学校生活を送れている。
- ・見守りフィルターを活用して、自殺をほのめかすような検索をしている生徒にいち早く対応している。また、校務処理システムを利用して生徒の情報(問題行動や配慮が必要な内容など)を他学年の教員とも共有している。
- ・スマホや SNS を通じたトラブルに対して、外部講師を招いてネットリテラシーの講習会も実施している。

【総務部】・生徒手帳を A5 サイズからポケットサイズにリニューアルし、生徒が持ち歩きやすくした。

- ・各教科だけでなく特別支援教育に関する研修などの教員研修システムの構築を模索している。

【広報部】・昨年度の約120名の志願者増だったが、今年度は昨年同様の志願者数となった。

- ・専願受験者及び B 日程受験者が過去最多となった。
- ・今年度は170名の入学予定者となり、来年度は1クラス増の5クラスとなる。
- ・WEB 媒体を利用した学校 PR も進んできている。

【保健部】・高校1年生対象に「輝きスクール」を実施し、女性の健康教育をテーマに婦人科の先生に講演をしていただいた。女子生徒はもちろんであるが、男子生徒にも将来のパートナー、家族や学校や職場の女子の健康に対する理解を深める機会となった。

・今年度から奈良学園大学の特別支援教育を専門としている先生の協力いただき、特別支援の観点での教育相談や発達検査やカウンセリングを行うなど教育相談体制の充実を図った。

【人権推進委員会】

・高入教北部 A ブロックの公開ホームルーム研修会を本校で実施した。高1と高2の全クラスで異文化理解をテーマに生徒のプレゼン形式の公開授業を行った。

【生徒会指導部】

・生徒が立案した様々な新企画を実施した。

【国際交流部】・ターム留学（オーストラリア）に過去最多の14名が参加。次年度から法人より費用支援としてターム留学に関して奨学金が給付されることとなった。

・今年度よりシンガポール研修を実施。中学3年生と高校1年生計28名が参加。シンガポール国立大学の学生とコラボして課題解決型のプログラム等を行った。

・今年度の卒業生が北米の大学に進学することとなった。

【探究学習プロジェクト】

・今年度で5年目となるが、各学年でテーマを設定して取り組み内容も充実してきた。

・ルーブリックを用いた評価には課題はあるが、今年度の卒業生が探究学習の1期生となるが卒業式の答辞で、探究学習で協働力やコミュニケーション力が身についたと触れてくれた。

【巡回指導サポートチーム】

・巡回指導サポートチームの教員のみならず、学年の教員の巡回によりトラブルが減ってきたように思われる。

・巡回等による情報を生徒指導、スクールカウンセラー、担任、保護者との連携ということでスクールカウンセラーと巡回教員による情報交換会を月1回行って情報の共有を行っている。

【いじめ初期対応チーム】

・いじめアンケートの実施やアンケート実施後の集約会議を行い、いじめのない環境づくりに努めている。

②参観授業の感想

M1（小学5年）英語 ・児童にとって、来年度の交流というはっきりしたゴールがあるので、モチベーションも高く、一人一人が友達の発表をよく聞いた。

・発話もよく練習されていたイントネーションなどもしっかり言えていた。

・プレゼンで伝わる英語は難しいが、写真や字幕などを使って伝わるものになっていた。

・授業中に出てきたキーフレーズでリピートさせて発話させる方が良い。キーフレーズを使えるようになると交流時、さらに良い交流ができると思う。

・学年ごとに目指すべきものがあるので、英語学習のモチベーションがあがるのはとてもよい。

PPI (年少) 英語 ・ALT がうまく授業を展開していて、表情や音声等で幼児に伝わりやすいように工夫されていた。

・音楽や TPR (Total Physical Response 身体を動かしながら英語を身につける方法) を活用して効果的に授業がなされていてよかった。

・年少なので簡単な言葉と動きを対応させながらできていたが、今後、年中、年長と繰り返し行っていくことで、どんどん言葉を覚えていけるようになると思う。

③各校種の取り組みについてのご指導・ご意見等

・各校種からの説明内容を聞いて、どの校種も適切に年間総括の評価がされているように感じる。

・教員の働き方についての評価項目は作られるか。

→働き方についての評価項目は設けていないが、衛生委員会を各校種で行って教員に職場環境や健康についての意見を聞いたり、幼小中高の合同の衛生委員会を行い産業医からも助言をもらったりしている。また、教員へのストレスチェックを行い、ストレスの高い教員には産業医に個別に相談できる機会も設けている。

・中高の志願者が増加している点について具体的にどのような取り組みをしているのか。

→塾訪問を行ったり、学校見学会で生徒(チームなど)とみんという広報活動のボランティアサークル)から学校説明(英語での学校紹介など)を行う機会を設けたりしながら手厚く対応する学校であるという PR 活動を行っている。また、進路実績の報告も行っている。

・幼稚園及び小学校の教員研修について、学外への研修の機会をどのように設けているのか。

→(幼稚園)奈良県の私学連盟や園長会からの研修案内を教員へ伝えるが普段の保育があるため、積極的に研修に行くことが難しい状況である。夏期・冬期休業中に行われている研修会に個人的に参加する教員がいた。

(小学校)全教員が年2回(5月・11月)の西私小連教員研修会へ参加している。

各教員へ研修会の案内し、参加については個々に任せいている状況である。

・校内で授業を見合ったり、授業研究を行ったりすることも有効だとも言われているが、外部の研修会に参加することで良い刺激を受けたり、新しい視点を持てたりすることもあるので、英語教育に関しては奈良教育大学で年に3回行っている小中高大の研究会を案内させてもらえたらと思う。

④その他

来年度も前田先生に学校関係者評価・第三者評価委員会の委員としてご意見をいただける調整した。

Ⅱ PTA 関係者による学校関係者評価委員会

Ⅱ-①

1. 日 時 令和6年6月13日 10:00~11:30

2. 場 所 育友会館

3. 参加者

評価者名 川口優加子(登翔会会長)、佐々木雅代(高等学校副会長)、森脇珠里(中学校副会長)
奥田一子(小学校副会長)、大竹由里恵(幼稚園副会長)
藤村遼子・古川寛子(会計)、上田智里(書記) ※欠席:荒木冴子(書記)

学校園参加者

安井幸至(総括監兼中高校長)、高塚佳紀(小校長)、槇 康二(幼稚園長)、
三笥康之(高等学校教頭)、立花正幸(中学校教頭)、岡井幸紀(小学校教頭)
※欠席:日比忍(小学校教頭)

4. 協議内容

- ① 校園長より保護者会役員へ学校関係者評価委員の依頼を行う。
- ② 今年度の各校園の中期計画をもとに、学校経営方針と核となる取り組みについて説明する。
(資料 別紙) 奈良学園登美ヶ丘中学校・高等学校 中期計画
奈良学園小学校中期計画
奈良学園幼稚園中期計画
- ③ 2学期には、実際の教育活動も点検していただき、ご意見をいただきたい旨お伝えする。
3学期には、一年の取り組み状況を説明し、ご意見をいただき、次年度に繋ぎたい旨お伝えする。
- ④ 現在、小中高で検討中のポロシャツ(オプション品)の生地やデザイン等について意見収集をお願いする。

⑤ 質疑応答・意見交換

質問①奈良学園登美ヶ丘の3+4-4-4のルートマップの活用について

- ・中高との連携を更に充実させてほしい
- ・幼稚園の時から、中高までの動きが分かるようにしてほしい。
- ・幼稚園から小中高へ進学、そして卒業した卒業生の意見を聞いてルートマップにつなげられないか。
→・具体的なカリキュラム上でのルートマップについてはまだ課題があるが、
幼小中高の授業交流等を通じて共有し、管理職を中心にルートマップに反映できるようにしていきたい。
- ・小学校の説明会で卒業生のインタビュー動画を流し、奈良学園登美ヶ丘での教育課程を説明会参加者に説明している。教員が語るよりより効果的である。

質問②小学校のパンフレットの中でもう少し学力保障の記載があってもよいのではないか。

→ご意見を反映させていきたい。

質問③小学校から中学校への内部進学について、保護者間で噂としての話や、曖昧な話が多く心配な部分がある。過年度の進学率の数字(約5~7割)が先に歩いている気がする。

→・進学率については、年度によって違い(学年の人数や児童保護者の意向、学力面など)があるが、例年約6割の内部進学率になっている。

・内部進学説明会をM過程に入ってから説明ではなく、早い段階(P3,P4)からしていくことを検討する。本年度からは、内進説明会に中高教員から中高での進路について説明があるなど、小学校の保護者に中学進学後の具体的な話を聞いてもらう機会ができたことは良いと思っている。

質問④小学校の時に、奈良学園大学の松井先生の防犯についての講演を聞いて良かった。

中高の保護者向けに講演会の実施はないですか。

→ご要望について、中高でも保護者対象のネットマナー等の講演会を検討したい。

質問⑤幼稚園の園児数の減少を心配している。園が良いと思っていることと、保護者が良いと思っていることは違っているかもしれないので、教えてほしい。

内部進学、上級学年との交流の良さをもっと出してはどうか。

→思いが違うことは全て悪いことではないが、保護者からの口コミは大切。幼稚園の良さを有効的に伝えていきたい。本園での学びは全体的な良さがある。この部分だけがこうだということではないが、新たな取り組みを含め、フォーカスポイントを絞っていきたい。

意見①スマートフォンの活用について、アプリの活用を認めてほしい。

→アナログとデジタルの有効活用を行いたい。

意見②先日、登校後の警報発令により下校時刻が早まったが、小と中高の下校時間が

異なっていたので、できれば中高生と時間を揃えて帰してもらえれば、小学生を中高生が見守る形で下校でき安全だと思うので検討してほしい。

→一斉に帰るという状況の場合はそうさせていただきたい。

意見③女子には夏用のカーディガンがあるが、男子にはない。エアコンで寒いと感じる男子は夏でも冬用のセーターを着ないといけないので、男子にも半袖に羽織れる夏用のカーディガンを検討してもらえないか。

→現在検討中のポロシャツとともにカーディガンの件も検討する。

Ⅱ-②

1. 日 時 令和6年11月19日(火) 10:50~12:30

3時間目(10:50~11:40)に、Y1 学年(中学3年)の授業(数学Ⅰ)の参観を参観。

2. 場 所:サイエンスラボ、Y1A 組教室(授業参観)

3. 参加者

評価者名 川口優加子(登翔会会長)、佐々木雅代(高等学校副会長)、森脇珠里(中学校副会長)
古川寛子(会計)

学校園参加者

安井幸至(総括監兼中高校長)、三笥康之(高等学校教頭)、立花正幸(中学校教頭)
西海進路指導部長

4. 議事録

①校長挨拶

登翔会本部役員の皆様には、物心ともにお世話になっています。ふれあい清掃も盛大に実施していただき感謝しています。クラブ活動や進路講習などでもお世話になっています。おかげさまで、今年度は、室内楽部が単独で全国高等学校総合文化祭に出場することになりました。

学校では、2学期の大きなイベントもほぼ終了し、期末を迎えるにあたって特別面談週間として面接を実施しています。また、中学入試プレテストでは、420名を超える児童に参加していただきました。翌週の土曜日には、プレテストの答案返却解説会を実施し、午後は、入試説明会・学校見学会を開催して、いよいよ本番へと進めていきます。今年度の入試は、昨年度に比べて受験者数が100名の増となりました。生徒に丁寧に寄り添いながら伸ばしていく本校の指導にご期待いただいているものと思います。

学校関係者評価委員会では、主に授業を参観していただいています。昨年までは、特色的な授業（探究学習、G.C.P.、特にICTを活用した授業）を参観していただきましたが、今回は、オーソドックスな授業を参観していただきます。大学入試では、答案を書くこととなりますので座学でアナログ的な対話授業もとても大切です。また、「わかる」と「できる」とは違います。つまりいたことなどへの振り返りを授業の中で行うことはとても大事なことです。授業を大切に、日々、学力を伸ばしています。

授業参観の後、進路指導部長から大学入試を意識した中学段階からの取り組みや重点的な取り組みについて説明させていただきます。

②YI 学年(YIA組 数学Ⅰ(数学Ⅰ:余弦定理)授業参観 ※授業者:矢倉 怜(数学科主任)

(参観後の感想):《委員 A》

先生の話し方、明瞭な言葉遣いを聞いて、私もこういう授業をしていたらいいなと思う子供たちが羨ましく思いました。内容も高度なことで、積み重ねが大事なのだと思います。アクティブラーニング的な展開もあり、生徒は授業を受けながら、休んでいる生徒にもオンラインでつないでいました。休んでいる生徒に学校が授業をオンラインでフォローしていただいていることに感謝しています。

③学校評価委員会

・進路指導部の取り組み報告(西海進路指導部長)

進路指導部としては、保護者や生徒に情報と作戦をいかに伝えることができるかが大事であると考えています。

進路講演会について、これまで2学年まとめて実施していたものを、今年は学年ごとに実施しています。講師も予備校の先生から進路指導部に変更しました。また、実施日も平日から土曜日に変更し、対象も保護者だけでなく生徒対象のものも実施しています。

また、大学入試制度が随分変わってきているので、制度をきちんと説明することが必要だと考えました。そのために、教員が積極的に研修を受け生徒・保護者に説明できるように情報を共有している。

また、受験した模試についても業者の方に参加していただき分析会をしていただき、それぞれの教員が現状を把握し共有するようにしている。

《委員 B》

父親も1人で出席しましたが、すごくよかったと言っていました。

(校長)

実際に進路講演会後に多くの保護者が進路指導室を訪ねています。西海先生が授業を担当している学年以外の生徒も訪ねています。キャリア教育のキーステーションにする目的で進路指導室を今のように改修しました。すこし部屋がせまいですが、生徒たちはよく相談に行っています。

(進路指導部長)

実際に、生徒がよく相談にきます。保護者の方も保護者会後に来られることがあります。電話もときどきかかってきます。それ以外にも講演会の事後アンケートに書かれる方もいらっしゃいますので、それに対しても進路指導部で検討して回答しています。

《委員 A》

これからは国公立大学の推薦入試に挑戦する生徒も増えるのではないかと思います。先生方の負担が相当あると思います。バックアップしていただける先生方がいらっしゃれば、小論文の添削など指導していただけるのではないかと思います。学校全体で取り組める環境を作っていただきたい。

(進路指導部長)

今年度は、国公立大学へ36名が進学しましたが、そのうちの9名が推薦で合格しています。これからも増えていくと思います。高3になってからあわてて推薦入試を考えても間に合いません。学力も大事ですが、高校入試がない分、中学からいろいろな事に興味関心をもって下地をつくることが大事だと思います。M3(中1)であってもM4(中2)であっても勉強だけでなくいろいろな活動に興味を持てるような仕掛けを学年でもやっていかなければなりません。Y1(中3)は、高校入試がないことがすごくメリットなので、そういった働きかけをしていくべきでありやっていきます。

・今年度の重点取り組みとその進捗状況について(安井校長)

学校経営のスローガンとしては、今年も「伸び率日本一」を掲げています。子供たちをしっかり伸ばす、面倒見のいい学校、手厚く指導する学校として先生方と一丸となって取り組んでいます。今年7月の「東洋経済」どう雑誌に、卒業生のうち半数が関関同立に進学している、あるいは1割が医学部医学科に進学している、難関大学(旧帝大、一工神)に一定割合進学している学校が掲載されています。中学入試偏差値の低い順にならんでいますが、その中で本校は、奈良県でベストワンということになっています。それだけ、しっかり伸ばしている学校だということを紹介していただいています。

まずは、「学び力」ということで、大学受験に必要な総合的な学力をM3学年の時期からしっかり身につけていただいております。中学段階は、学習の仕方、授業の聞き方、ノートの取り方、課題の提出の事後指導、朝テスト、終礼テストやその補習などを手取足取り、指導しております。それだけでは、難関大学突破は難しいので、Y1、Y2段階くらいからは、自分の学習スタイルを持ち、学習習慣作りを意識して自走できるよう学年でも指導していただいています。

「学び力」では、大学探訪ということで、現在は、大阪大学、京都大学、奈良県立医科大学に、Y1、Y2の段階で行っています。この段階からあこがれをもつことで、どう学習を進めていくのかというステップアップを具体的に考えていきます。創立記念日(11/1)には、京都大学、大阪大学へ行かせていただきました。それぞれ約30名ずつ、あわせて65名ほどのY1、Y2生が参加しました。12月には、奈良県立医科大学にも行かせていただきます。看護系、医療系の志望の生徒には、12月に本校の奈良学園大学の保健医療学部に行って、

設備や装置を体感させていただくことにしています。これは今年からの実施となります。医学部受験対策には医学部専門予備校から、講師をお招きしての小論文と面接の指導を行っていただいております。医学部志望生徒の学力は、上がっていきませんが、Y4生になってさらに40点、50点プラスというのはなかなかむずかしいことです。戦略的に面接と小論文で30~40点を挽回することを目指します。それは、私たち教員の指導では、当然行き届かないことがありますので、専門予備校のノウハウをお借りしております。

学習合宿はY3の春休み、夏休みに実施しております。だいたい、50~60名くらいの生徒が参加しています。3日間、缶詰状態で1日10時間の自習をします。自習できる力が必ず、学力を伸ばします。勿論、先生方が質問も受けましますし、教科によっては講座もあります。

尚志館は、個別指導塾と提携して、質問型としては自習で質問をしたり、学習計画の立て方、定期考査のフィードバック、模試に対応するための学習計画などの指導をします。カリキュラム型は1対1で授業を受けまします。20名ほどチューターがいますが、そのうちの7名が本校の卒業生です。

「探究力」について、探究学習を始めて5年目になります。各学年でテーマ設定をしております。知識を身につけた上でそれを活用してのユニット学習を設定して実施しています。Y2学年は週1回、総合的な探究の時間を使って、SDGsに関する探究学習を行っています。「SDGs未来クエスト」というコンテストで、全国大会に出場する生徒たちもいます。そういう生徒たちが、先程ありました特色入試や総合型選抜（論文入試）に挑戦していきます。今年は、9人が国公立の特色選抜に合格してくれました。特色入試でも共通テストを受ける必要があるものもあれば、共通テストを受けなくても論文だけで決まるものもあります。志望動機や高校時代にどんな活動をしてどんなふうに自主的に探究活動、課題研究を行っていたのか、大学ではどんなことをやりたいのかということで合否が決まる難関大学もあります。そういう大学に探究学習で学んだことを活かして挑戦していただきたいと思います。

「Inochi 学生イノベーションズプログラム」は、中学生、高校生が国立大学の医学部の学生とチームを組んで毎年、設定される医療関係、ヘルスケア関係の課題の解決をするアイデアを競い合うもので、毎年有志のグループが参加してくれています。今年はY1学年が頑張ってくれています。今年のテーマは、「ロコモティブシンドローム」ということですが、われわれ教員は指導できませんので、奈良学園大学保健医療学部のリハビリテーション学科や看護学科の先生の所にいて、研究の仕方の指導を受けたり、学生さんにアンケートをとらせていただき、研究の示唆的なアドバイスをいただいたりしています。そこで得られた1次データを駆使してチームで1つの解決策に落とし込んで発表するというので、関西大会にも出場してくれました。以前は、関西で3位まで全国大会へ出場でき、実際に全国大会へ出場して優勝したチームもありました。いろいろな地域の学校の参加が増えてきて、関西は関東に次いで学校数が多いにも関わらず1位しかいけないということで残念でしたが、果敢に挑戦してくれました。今年の卒業生で、これに参加してくれたときのテーマは、心不全パンデミックでした。実際に愛媛県に行って、減塩弁当をワーキングプアの方に配り、食塩の取り方について関心を持っていただいて医療につなげて命を救うという崇高なテーマに取り組んでくれました。そのメンバーの1人は、愛媛大学医学部に推薦で合格し、あと1人は滋賀医科大学医学部に進学しました。探究学習がそのまま総合型選抜の大学入試に直結しているということを実現してくれました。後輩たちもそれについていいと思っています。

「国際力」に関しまして、ターム留学は、今年は14名が参加してくれます。過去で一番、人数が多いと思います。Y2学年の1月の末に出発し、帰国は4月の始めになります。オーストラリア語学研修は、Y3学年全員参加します。

今年から新規でシンガポールグローバルリーダー育成研修を実施します。中学生で留学というプログラムを本校は持ち合わせていないので、是非、中学生にもということで、いろいろ画策していましたが、今年からY1、Y2 生を対象に実施することとなりました。12月の期末考査が終わってからのちょうど三者懇談の時期から1週間、派遣することができました。28名のY1、Y2 生が参加してくれました。これは単なる語学研修ではありません。シンガポール国立大学の学生で日本語を研究している学生をメンターにして共同でフィールドワークをしたり、課題探究の結果を英語でまとめて、学生に指導していただいたものを最終日に英語でプレゼンするというもので、かなり欲張りなプログラムです。うまくいなくてもプロセスが大事であり挑戦しようとする気概が大事なのだと思っています。

「グローバルコンピテンスプログラム」というネイティブ講師によるオールイングリッシュの授業も行っており、abceedとかELSTなど自分の発話、発音、文章を声にして吹き込んだものをAIが瞬時に採点してくれるというアプリも活用しています。このアプリは、フリースピーチも瞬時に採点してくれますから英検の2次対策などいつでもどこでも何度でも家で練習できるもので、M課程段階から順次、採用しています。

そういう中で、一番、力をつける根本が「人間力」で、これは、自分を律する力、やり抜く力、素直さであったり、人に感謝するという人間としての力です。部活動や毎年実施している宿泊学習も人間力の育成につながると考えています。さらに、安心・安全ということではいじめ対策、これは欠かすことができない取り組みだと思っています。年間、2回アンケートをとって、その集約会議を行って早期発見、早期対応ということで先生方とともに取り組ませていただいております。

・質疑応答

《委員 B》

スカート丈の指導について、基準が統一されていないように思います。統一することで生徒が不公平を感じるような指導にならないようにしていただけないでしょうか。

(教頭)

教員間で再度、基準を確認し指導してまいります。

《委員 C》

体育館を使用しているクラブですが、長期休暇中の体育館の利用時間を決めていただくのが考査終了後になります。家庭学習日がはじまる直前に1か月分のスケジュールを教えていただくことになります。活動時間が、午前か午後かが日によって、曜日によって違うので仕事をするタイミングと子どもが家にいるタイミングが調整できない。できるだけ子どもが家にいるときは自分も家にいてやりたいと個人的には思っております。普段は1か月前にスケジュールを教えていただいていますので、それと同じくらいに教えていただくといありがたいです。おそらく、すり合わせに時間が必要なかもしれませんが、はじめに知らせて頂きますと予定が立てやすく働きやすくなります。

(教頭)

顧問に伝えます。

(資料 別紙) 学校経営スローガン:子どもの「伸び率」日本一を目指す(校長作成)